

生命環境学部・大学院医工農学総合教育部 生命環境学専攻この一年（平成31・令和元年度）

平成31年4月

■4月5日（金）山梨大学入学式挙行

YCC 県民文化ホール（甲府市）において、平成31年度山梨大学入学式を挙行し、学部877名、大学院修士課程231名、博士課程67名、教職大学院の課程35名、専攻科11名の計1,221名が入学しました。（本学部関係の入学生は、学部155名、大学院修士課程47名、博士課程10名の計212名となっています。）

島田眞路学長は、「これからの未来社会を生き抜くため、国際的なコミュニケーション能力、課題解決力、論理的思考力、規範的判断力を身につけてほしい」と式辞を述べました。

来賓を代表し長崎幸太郎山梨県知事より祝辞を頂戴しました。



島田学長式辞



新入生代表の医学部露木さん



新入生の皆さん

■4月5日（金）平成31年度 後援会総会開催

平成31年度入学式終了後、平成31年度生命環境学部・大学院医工農総合教育部生命環境学専攻後援会総会を開催しました。黒澤生命環境学部長・生命環境学専攻長の挨拶、生命環境学部等役職員の紹介に続き、平成31年度の後援会役員を選出を行いました。

総会後は各学科に分かれ懇談会が催され、学科別に実験室などの施設見学が行われました。



入学式後にもかかわらず多くのご父兄にご参加いただきました。



施設を見学していただく良い機会となりました。

■4月19日（金）新入生オリエンテーション

新入生を対象としたオリエンテーションや合宿が学科ごとに実施されました。学生相互及び先輩や教員との交流で、初めは緊張していた新入生でしたが、徐々に打ち解けていました。実りの多い時間が過ごせた事と思います。



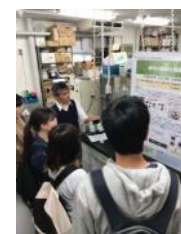
先輩からのアドバイスに耳を傾けています。



合宿で西湖へ。学生同士はもちろんの事、先生方も親しく交流できました。



生命工学科では研究室見学ツアーを行いました。



《4月・実習等の様子》

生物工学の実験です。牛乳からカゼインを取り出し乾燥させ、その量を調べます。



カゼインを凝固させて取り出す為の、緩衝液を作っています。



この後乾燥させて重さを量ります。

混ぜるとカゼインとホエイに分離します。



令和元年5月

■5月20日（月）山梨大学大村智記念基金奨学金授与式を挙行

大村智記念学術館において、令和元年度山梨大学大村智記念基金奨学金授与式が執り行われました。本学では、ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村 智 特別荣誉博士の「若者の学業を奨励したい」との強いご意向を踏まえ、「山梨大学大村智記念基金」を活用し、平成28年度から大学独自で学部学生に対し、返還不要の奨学金を給付しています。本年度は、生命環境学部の4名を含む計18名の学生に、島田眞路学長より目録と記念色紙が授与されました。



■5月23日（木）「ぶどう」を利用したグリーンカーテンを山梨県庁職員が視察



山梨県エネルギー局から、市川局長をはじめとする3名の県職員が、「ぶどう」のグリーンカーテンの視察のため生命環境学部を訪れました。

このグリーンカーテンは夏の冷房費を抑制するために、環境科学科の御園生教授らが3年前から取り組んでいるもので、S3号館南側に植えられています。

視察当日は御園生教授が、ぶどうの品種による育成状況の違いや剪定方法、鳥や虫の被害状況などを説明しました。

■5月23日（木）第9回山梨大学国際ブドウ・ワインセミナーを開催

山梨県防災新館プラザ「オープンスクエア」において、ワイン科学研究センター主催「第9回山梨大学国際ブドウ・ワインセミナー」を開催し、ワインの生産者、学生、ワイン愛好家など100名ほどの方にご参加いただきました。

今回は、ワシントン州立大学講師で Master of Wine である TIM HANNI 氏をお招きし“WHY YOU LIKE WHAT YOU LIKE”と題し講演をいただきました。



Hanni 講師から、自分の感覚を素直に受け入れ、自分の好みのワインを見つける楽しみについて説明を受けました。



ドイツ・フランス・山梨のワインをテイस्टング。



多くの方が Hanni 講師の貴重な話に耳を傾けました。

■5月27日(月) 環境科学科の島弘幸准教授が山梨科学アカデミー奨励賞を受賞

第24回山梨科学アカデミー賞・奨励賞授与式が、山梨大学大村記念学術館で挙行政され、環境科学科の島弘幸准教授の研究「竹の形態に学ぶ新しい構造設計概念の創出」が奨励賞を受賞しました。



《5月・実習等の様子》



附属農場にて実習。
↑土壌の調査方法、分析用の土壌の採取方法の実習です。

→農場の技術員の指導の下、ショベルカー・トラクターの運転を体験しました。



附属農場にて生物資源実習。
さつまいも、ナス、ピーマンの苗を植えました。ほうれん草、ミニハクサイなどを収穫。



梅の収穫中。



令和元年6月

■6月6日(木) 英和高校の皆さんが来学

英和高校の生徒さんが生命環境学部の見学に訪れました。
写真は環境科学科の環境微生物学研究室を見学している様子です。
実験室に設置してある機器の説明などに熱心に耳を傾けていました。



■6月17日(月) 沼津市立沼津高校の皆さんが来学



沼津市立沼津高校から38名の生徒さんが生命環境学部を訪れました。



4つのグループに分かれ、生命工学科の研究室を見学しました。
電子顕微鏡や3Dメガネなど、研究室ならではの装置の操作を体験しました。

■6月21日(金) 生命環境基礎ゼミの全体発表会開始

生命環境基礎ゼミは、一年生がいくつかの班に分かれ、それぞれ特色のある調査テーマを設定し、学部一年生全員の前で発表を行います。一年生にとっては初めての発表会。4月から調べてきた成果の発表に皆さん緊張気味でした。



■6月28日(金) 第26回日本微生物資源学会において優秀発表ポスター賞を受賞

6月28日(金)・29日(土)に開催された第26回日本微生物資源学会において、生命工学科4年の小山文也さんとワイン科学研究センターの乙黒美彩准教授がそれぞれ優秀発表ポスター賞を受賞しました。



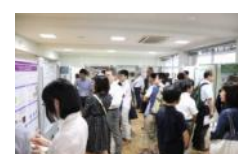
ワイン科学研究センターの柳田教授が大会会長を務められました。



生命工学科4年小山文也さんに表彰状が手渡されました。



乙黒美彩准教授の表彰時の様子。



熱心にポスターに見入る参加者たち。

《6月・実習等の様子》



生命工学科では親睦を図るため、研究室の垣根を越えたチーム編成で、バトミントン大会が催されました。



環境科学科では、2年生と教員の交流を目的としたBBQを実施しました。美味しい食べ物を前にすると、自然と心もオープンになるようです。

令和元年7月

■7月2日（火）タイのコンケン大学より4名の方が本学部を訪問

タイのコンケン大学から4名が本学部を訪れ、各学科を見学されました。



黒澤学部長より学部の説明。



見学のほか、ワインの官能評価（試飲）も。



それぞれの学科の研究室を見学。



コンケン大学の皆さんと。お互いに有意義な時間を持つことが出来ました。

黒澤生命環境学部長からの学部の説明の後、各学科の説明、その後実験室を見学。

昼食をはさみ、午後からはワイン科学研究センター・国際流域環境研究センター・発酵工学研究センターを見学し、説明を受けられました。

■7月6日（土）・7日（日）

日本組織培養学会で本学大学院生が Graduate Students Session Award 受賞

7月6日・7日の両日、日本歯科大学生命歯科学部において、第92回日本組織培養学会が催され、本学統合応用生命科学専攻2年次の依田聖未さんが Graduate Students Session Award を受賞しました。



■7月26日（金）ベトナム国家大学と交流協定締結



このたび、ベトナム国家大学ホーチミン市校国際大学バイオテクノロジー学部からグエン・バン・トン学部長が来学し、本学部の黒澤尋学部長と交流協定締結の調印式が挙行されました。

両学部ともバイオテクノロジーの研究が中心であり、今回の協定締結により、学生・教職員の交流、共同研究の推進などが期待されます。

■7月31日（水）荏崎高校の生徒が実験教室に参加

生命工学科の大槻准教授が、遺伝子工学技術の基本や遺伝子操作・遺伝子診断などの最新事情について講義した後、高校生たちも参加して、自分のアルコール代謝能力の強弱を遺伝子の増幅研究津によって調べる実験を行いました。



先生の指導を受けながら、慎重に。

《7月・実習等の様子》



＜地域社会システム学科＞

南アルプス天然水白州工場・ウイスキー博物館の見学。どのように南アルプスの天然水がはぐくまれるのか、どのように商品化されていくのか、説明を受けながら製造ラインを見学しました。その後試飲をさせていただきました。



＜生命工学科＞

2年生による化学実験の様子です。分子模型を組み立て、立体構造観察を行います。

令和元年8月

■8月2日（金）大山拓次准教授の研究が「研究成果最適展開支援プログラム」に採択

生命工学科、大山拓次准教授の研究課題が、国立研究開発法人科学技術振興機構の「研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）」機能検証フェーズの「試験研究タイプ」に採択されました。

このプログラムは、大学等の技術シーズが、企業の抱える技術的課題の解決に資するかどうかを確認するための試験研究を支援するものです。

■8月3日（土）オープンキャンパスを開催

猛暑の中、全国各地から多くの高校生の皆さんと保護者の方々にご参加いただき、午前・午後の2回学科ごとに学科紹介、研究紹介、施設見学等を行いました。



日頃見ることのない研究室の見学や、実験の様子、学生たちのタイムスケジュールなどを知ること、山梨大学の学生となった時の自分を想像する一助にはなったかと思います。

■8月3日（土）令和元年度 後援会懇親会開催

令和元年度生命環境学部・大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻後援会懇親会を開催しました。

当日は、昨年度選考したロゴマークを活用した学部関連グッズの提案、新入生に対する後援会からの支援などについて意見交換を行い、有意義に会を進めることができました。

後援会役員および会員の方々には、日頃から生命環境学域のためにご尽力いただき、感謝の念に堪えません。ありがとうございます。

■8月30日（金）韓国で開催された観光未来世代フォーラムにて奨励賞を受賞



地域社会システム学科3年中込留美さん、小田切可奈さん、堀内大誠さんは、8月30日、31日に、韓国仁川にて開催された、第9回日中韓文化・観光大臣会合 観光未来世代フォーラムにおいて、奨励賞を受賞しました。

これは、日中韓観光活性化に向けた方策を提案するコンテストで、3人は提案書部門において「ポップカルチャーを活かした日韓観光の発展に向けた公的機関によるプロモーション強化に関する提案」というタイトルで発表を行いました。

《8月・実習等の様子》



ハケ岳牧場にて牧畜現場を実体験。その後味噌工場を見学し、微生物を利用して作られる発酵食品の製法などを学びました。

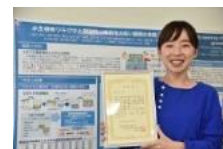
3年生を対象に、筑波大学の下田臨海実験センターにて臨海実習を行いました。プランクトンや磯周辺にいる生物を採集し、仕分けや観察をしました。

令和元年9月

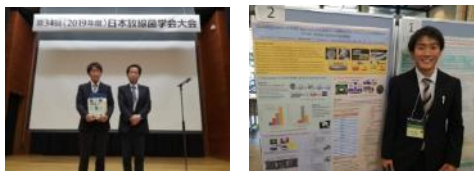
■9月10日（火）～13（金）日本微生物生態学会で優秀ポスター賞を受賞

山梨大学甲府キャンパスにて日本微生物生態学会が開催され、大学院生命環境学専攻地域環境マネジメントコース2年の武川悦子さん(指導教員：田中靖浩准教授)の研究、「水生植物ウキクサと親和性・定着性の高い微生物の検索」が学部・修士課程学生の部で優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞した研究で得られた成果は、水生植物のウキクサを利用したバイオマスエネルギー生産や排水処理に役立つものとなっています。



■9月23日（月）・24（火）日本放線菌学会でポスター賞を受賞



北海道大学学術交流会館で開催された、第34回日本放線菌学会大会において、大学院修士課程生命環境学専攻バイオサイエンスコース2年の岩淵智宏さん(指導教員：山村英樹 生命環境学部生命工学科准教授 早川正幸副学長・理事)がポスター賞を受賞しました。

《9月・実習等の様子》



長期休暇中の海外プログラムに参加し、タイの学生と交流したり、文化体験研修に参加したりしました。

3、4年生を対象に、「ウイスキー製造概論」の一環でサントリー白州蒸留所の見学と、ウイスキーテイasting体験が行われました。



令和元年10月

■10月1日(火) 山梨大学特別待遇学生及び学業成績優秀者表彰式

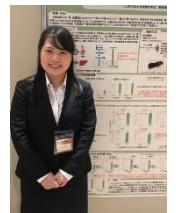
大村記念ホールにおいて、令和元年度山梨大学特別待遇学生及び学業成績優秀者表彰式が、行われました。山梨大学では、学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められた者を学業成績優秀者として表彰しています。



生命環境学部からは、生命工学科 横山匠さん、地域食物科学科 片岡結女さん、環境科学科 小林優花さん、地域社会システム学科 鈴木裕也さんの4名が特別待遇学生として、また学業成績優秀者として、生命工学科 白倉美雨さん、地域食物科学科 山崎萌音さん、環境科学科 中田悠介さん、地域社会システム学科 中込留美さんの4名が表彰されました。

■10月19日(土) 中性脂肪学会で優秀演題賞を受賞

武蔵野大学有明キャンパスで開催された、中性脂肪学会第3回学術集会において、大学院修士課程生命環境学専攻バイオサイエンスコース1年の木村真由さんの研究「中鎖脂肪酸による老齡期の代謝改善作用—brd4 ヘテロ欠損マウスを用いた検証」が優秀演題賞を受賞しました。



■10月24日(木) 国際学会で風間さん・松本さんがポスター賞受賞

ベトナム国家大学ホーチミン市国際大学で開催された国際学会にて、大学院博士課程統合応用生命科学専攻生命工学コース1年の風間晃輔さんと大学院修士課程生命環境学専攻バイオサイエンスコース1年松本



沙知さんが、優秀ポスター賞を受賞しました。

この国際学会は、ベトナム、中国、韓国、日本の発生工学に関わる研究者や学生が参加する学術大会であり、本学からは発生工学研究センター及び生命工学科から学生7名、若山照彦教授、岸上哲士教授、大我政敏助教、渡辺連助教が発表を行いました。

■10月26日(土)「令和元年度山梨大学ワインセミナー」開催

東京都港区、フクラシア品川クリスタルスクエアにて、ワイン科学研究センター主催のワインセミナーを開催しました。これは同センターが毎年開催しているもので、本学教員をはじめ、山梨県産業技術センターや山梨県ワイン酒造組合の専門家を講師にお招きし、講師の解説を聞きながらワインをテイスティングできるイベントで、首都圏等から110名が参加しました。



熱気あふれる会場。



テイスティングしたワイン。



サーブを担当した学生たち。

《10月・実習等の様子》

微生物学手法を習得する実習です。細菌・放線菌・カビ・酵母の代表的菌種の標本を作成し、各微生物の特徴を観察します。



令和元年11月

■11月1日（金）～3日（日）第17回 梨甲祭開催

「 Blossom～青春の花、咲かせよう～」をキャッチフレーズに、第17回梨甲祭が開催されました。毎年恒例の仮装パレードなどが行われる中、生命環境学部の学生もワインの試飲会や自家製の豚汁・パンの販売などの模擬店を出店しました。



■11月2日（土）石黒 浩 大阪大学名誉教授が全学同窓会主催公演会で特別公演

甲府キャンパスにおいて、本学卒業生で、アンドロイド研究の第一人者である石黒 浩 大阪大学名誉教授から「ロボットと未来社会」と題して講演をいただき、同窓生や学生、教職員、県内の高校生など約300名が参加しました。

石黒教授は、実際に開発されている対話可能なロボットを映像を交えて紹介するとともに、技術の進歩により、コンピューター・機械が脳や人体の機能を超え、SF作品で見られるような、身体を機械に置き換えるような未来が来るかもしれない、と語りました。

講演終了後には学生などの質問に答えていただき、有意義な講演会となりました。



■11月29日（金）・30日（土）甲府キャンパスにて日本ブドウ・ワイン学会開催

日本ブドウ・ワイン学会は昭和59年(1984年)から開催されており、今回は全国から200名以上の関係者が参加しました。クリステン・バーンヒーズル ASEV 会長とダン・ハワード同事務局長を招聘し、カリフォルニア州での白ワインの製造技術などの講演をいただいたほか、テイストングなどが行われました。また、本学の齊藤史恵ワイン科学研究センター助教がポスター部門で、大学院修士課程生命環境学専攻食物・ワイン科学コース2年の小原嘉月さんが口頭発表部門で、それぞれ大会発表賞を受賞しました。



令和元年12月

■ 12月4日（水）富士急ハイランドの羽田亮太 遊園地本部長が学生に講義

観光に関する基礎的な情報リテラシーを身につけることを目的とする全学共通教育科目「観光学入門」の一環として、観光産業の現場の第一線でご活躍されている、富士急ハイランドの羽田亮太遊園地本部長をお招きし、講義をしていただきました。

富士山観光を基軸とした富士急ハイランドの経営戦略など、実際に結果を残してきた方の有意義な講義に学生たちもメモを取りながら、熱心に聞き入っていました。

■ 12月4日（水）生命環境学部3年生 宮川悟さんがインターンシップ成果発表会にて優秀賞を受賞

日本大学生産工学部津田沼キャンパスにおいて開催されたNPO 法人 日本インターンシップ推進協会主催「第19回インターンシップ成果発表会」において、本学代表として参加した生命環境学部生命工学科3年の宮川悟さんが優秀賞を受賞しました。



宮川さんは、山梨県立富士湧水の里水族館での2週間のインターンシップの体験を、自身の専攻している生命工学及びこれからの自身の就職と結びつけ発表しました。

《12月・実習等の様子》



＜生命工学科＞

生命工学科の3年生です。12月・1月は分子生物学・遺伝子工学分野の実験を行っています。DNAや酵素、遺伝子組換え生物の取扱いに関する基礎知識及び技術の習得が目標です。



＜環境科学科＞ 学生、教職員及び卒業生の親睦を目的としたバスケットボール大会が、昨年に引き続き開催されました。親睦とはいつつ、白熱した試合が繰り広げられました。

令和2年1月

■ 1月10日（金）ドラマ「ゆるキャン△」の撮影に学生がエキストラとして参加

生命環境学部地域社会システム学科観光政策科学特別コースの学生が、1月10日（金）に放送されたドラマ「ゆるキャン△」にエキストラとして参加しました。昨年11月に山梨県身延町で開催された人気アニメ「ゆるキャン△」のイベントの企画・運営に、同コースの学生が参画させていただいた事から実現しました。



■ 1月15日（水）山梨県観光部の仲田道裕部長が学生に講義

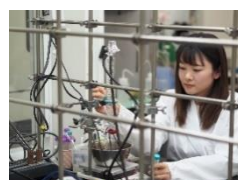
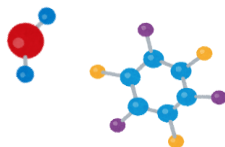
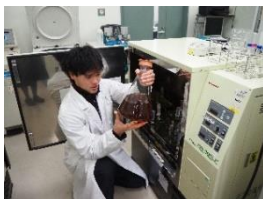
観光に関する基礎的な情報リテラシーを身につけることを目的とする全学共通教育科目「観光学入門」にて、山梨県観光部の仲田道裕部長をお招きし、特別講義をしていただきました。

山梨の観光の現状、消費額の推移等を踏まえ、これからの課題、山梨県の取組みなどを分かりやすくご講義いただきました。

《1月・実習等の様子》

〈蛋白質構造生物学研究室〉

遺伝子組換え蛋白質を結晶化させ(下)、その構造を予測し、3Dビューメガネを装着してその構造について議論しています。



〈ナノバイオテクノロジー研究室〉

生体機能を利用した新規機能性材料を開発中。右上の写真は研究室で合成した蛍光材料で、ブラックライトを照射すると蛍光を発色します。

令和2年2月

■2月19日(水) フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センターの学生らが来学

フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センターの教員・学生など17名が来学しました。一行は山梨県内のワイナリーを見学後、山梨大学ワイン科学研究センターを視察しました。



その後の本学学生との懇親会では、ワインに関する活発な意見交換が行われるだけでなく、奥田教授が尺八の演奏を披露してくださり、日本文化にも触れられる貴重な時間を過ごしていただけた事と思います。



■2月20日(木) 第12回山梨大学国際ブドウ・ワインセミナー開催

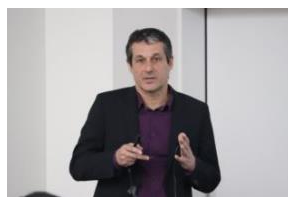
今回は山梨大学大村智記念学術館にて、フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センターより、オーレリー・ローラン氏、パトリス・ラルマン氏を講師にお招きし、山梨大学国際ブドウ・ワインセミナーが開催されました。

ローラン氏は「ブドウからワインへ：単一品種のチオール生合成について」、ラルマン氏は「原産地呼称による“テロワール”ワインの文化遺産価値を高める：ブルゴーニュの例」と題し講演されました。

開催当日は天気にも恵まれ、講師の方々の有意義な講演を聴くことができ、実り多い一日となりました。



講演するオーレリー・ローラン氏



講演するパトリス・ラルマン氏



熱心に聞き入る参加者

令和2年3月

■3月6日(金) 令和2年度 一般入試(前期日程) 合格者発表

3月6日(金)、令和2年度一般入試(前期日程)の合格者が発表されました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中での発表となりましたが、例年通り、自分の受験番号を見つけ喜びの声を上げる姿や、掲示をバックに写真を撮る姿を見ることができました。



■3月13日（金）後援会会計監査を実施

毎年この時期に開催していた後援会役員会が、新型コロナウイルスの影響で開催中止となったため、本年度は会計監査等のみを行いました。

後援会役員の皆様、ご父兄の皆様には、山梨大学生命環境学部の活動に日頃からご助力いただき、ありがとうございます。

■3月24日（火）山梨県立甲府第一高等学校と連携に関する覚書を交換

多様化する高校と大学の教育を円滑に接続し、高校教育の改善充実及び生徒の将来の進路選択に役立つことを目指し、山梨県立甲府第一高等学校と連携に関する覚書を交わしました。



小林校長(前列左)と黒澤学部長(前列右)

以上、詳細は、山梨大学「生命環境学部」ホームページをご覧ください。

<https://www.les.yamanashi.ac.jp/>